

# 三重のれきし 発掘隊! はっくつたい

鎌倉時代  
室町時代  
安土・桃山時代  
江戸時代

【DVD収録時間（映像約17分）】

- 1 鎌倉時代、室町時代 -----▶ 6分
- 2 安土・桃山時代 -----▶ 3分
- 3 江戸時代 -----▶ 5分
- 4 発掘調査員のごと -----▶ 3分

## かま くら じ だい むろ まち じ だい 三重の 鎌倉時代 室町時代

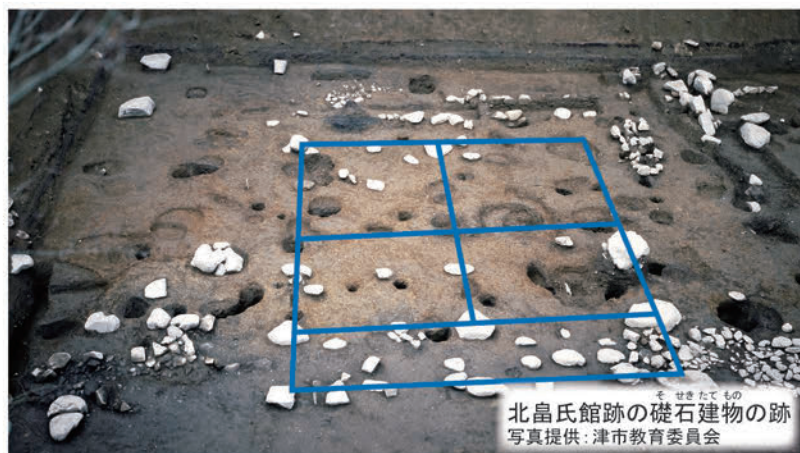
### 平氏と関わりある武士の館



屋敷地の中の墓

屋敷地で見つかった墓には、豪華な品が供えられていました。

### 室町時代の大名 北畠氏



北畠氏館跡の礎石建物の跡  
写真提供：津市教育委員会

北畠氏館跡では、礎石建物の跡が見つっています。礎石建物は、土台として置いた石の上に柱を立てる建物です。

北畠氏館跡には、庭園がつけられていました。それは、当時最先端の京都の文化を取り入れてつけられました。大名としての権威を誇ったのでしょうか。

館を囲む溝（雲出島貫遺跡：津市）

伊勢平氏と深く関わりがあったと考えられる武士の館が、津市の雲出川下流にある雲出島貫遺跡で見つっています。

写真の溝は、館の周りを取り囲み、堀の役目をしています。



北畠氏の本拠地 上多気（津市）

室町時代の大名である北畠氏は、津市美杉町上多気に館をつくり、津市南部から度会郡にかけて支配していました。そして、県内最大の勢力を誇っていました。



北畠氏館跡庭園 国名勝および史跡  
協力：北畠神社





ほったてばしらたもの  
掘立柱建物の跡 (蚊山遺跡:玉城町)

蚊山遺跡は、鎌倉時代前半の村の跡です。当時の村の建物は掘立柱建物でした。地面に掘った穴に直接柱を立てる建物です。発掘調査では、柱の穴が四角くめぐるように見つかります。

## 村の生活



掘立柱建物 (想像図)



文字や絵のかかれた茶碗 (蚊山遺跡)

蚊山遺跡では、文字や絵がかかれた茶碗が見つかりました。楽しそうな食事のようすが想像されます。

## 大きな港町 あ の つ 安濃津

鎌倉時代、室町時代は産業が盛んになりました。品物を運ぶときには船が使われ、港町もできました。

中でも津市にあった安濃津は、中国の書物にも書いてあるくらい大きな港町でした。安濃津柳山遺跡は、その港町の一部です。



あ の つ や な ぎ や ま  
安濃津柳山遺跡 (津市)

安濃津柳山遺跡では、今の中国から輸入されたお金も見つかりました。約40枚もあります。これらを使って商売が行われていたのでしょう。



輸入されたお金 (安濃津柳山遺跡)



溝で見つかった茶碗 (安濃津柳山遺跡)

安濃津柳山遺跡の溝の中から、愛知県でつくられた茶碗がたくさん見つかりました。船で伊勢湾を横断してここまで運ばれてきたのでしょう。



あつち もも やま し だい  
**三重の安土・桃山時代**

**安土・桃山時代の城**



い さか じょう あと  
 伊坂城跡 (四日市市)

や くら もん  
 櫓門 (想像図)

みなさんは、城というと、石垣の上に天守閣が建っているのを想像しませんか？  
 しかし、このころの城は山城といい、石垣や天守閣はなく、土を盛りあげた土塁と土を掘っただけの堀がありました。伊坂城もこうした山城の一つです。  
 矢印のところには、想像図のような門がありました。門の上には見張りをしたり、敵を攻撃したりする櫓があるので櫓門と呼ばれています。  
 発掘調査では、右のような土器や陶磁器がたくさん見つかりました。城は、武士にとって生活の場でもありました。



伊坂城跡で見つかった土器や陶磁器



と ば じょう あと  
 鳥羽城跡 (鳥羽市)



鳥羽城跡で見つかった瓦  
 写真提供:鳥羽市教育委員会

現在の尾鷲市出身といわれる九鬼氏は、一時期、志摩市の波切城を拠点としていましたが、その後、鳥羽城に移ります。そして、織田信長や豊臣秀吉に仕え、戦国時代を生き抜いていきます。



豊臣秀吉が天下統一するころには、城に石垣をつくるようになります。熊野周辺を治めるためにつくられた赤木城跡では、石垣がみられます。



あか き じょう あと  
 赤木城跡 (熊野市) 国史跡



えどじだい  
**三重の江戸時代**

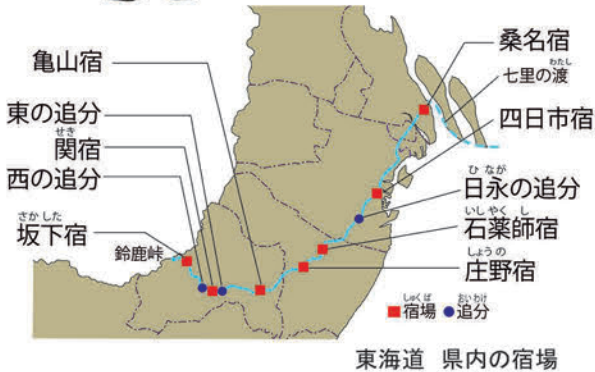
**三重県の主な街道**



関宿（亀山市）重要伝統的建造物群保存地区

江戸時代、幕府によって五街道が整備されました。五街道の一つ東海道は、三重県北部を通り、7つの宿場が置かれていました。

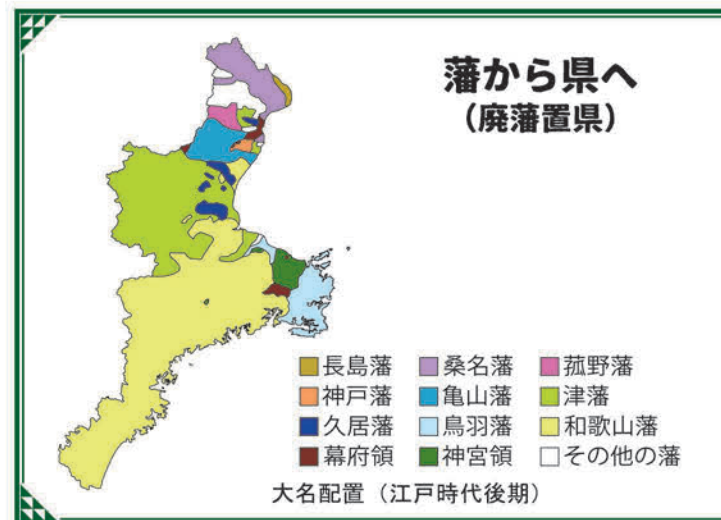
関宿には、当時の宿場の街並みがよく残っています。



七里の渡は、江戸から東海道を旅してきた人たちにとって、三重県への入り口でした。江戸から桑名まで10～11日かかりました。



伊勢街道の道標です。「これより外宮二里」と書かれています。遠くから伊勢を目指してきた人は「もう少した」と心浮き立つ思いだったでしょう。







三重県には、東海道や伊勢街道のほか、熊野街道や初瀬街道などが通り、人の行き来も盛んでした。



日永の追分（四日市市） 県指定史跡

追分は、街道が分かれるところです。日永の追分は、東海道と伊勢街道の分岐点です。



いちばしや  
市場庄遺跡の陶磁器（松阪市）

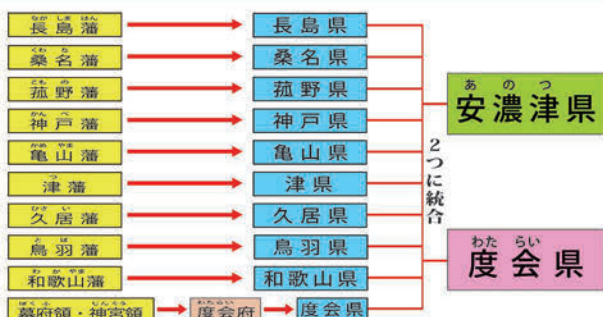
市場庄遺跡は、伊勢街道と初瀬街道の追分にある遺跡です。発掘調査によって茶店や宿屋などで使われていた陶磁器が見つかっています。当時、にぎわっていた様子が想像されます。

お伊勢参りをすませた人たちの中には、熊野街道を通して和歌山県のお寺や神社に向かう人もいました。

紀北町と尾鷲市の間にある馬越峠には、石畳といって、旅人が歩きやすいように石が敷き詰められていました。



熊野街道 馬越峠の石畳（紀北町・尾鷲市）  
世界遺産「紀伊産地の霊場と参詣道」



明治時代になると、政府は江戸時代の藩を廃止して県を置きました。これを廃藩置県といいます。間もなく安濃津県と度会県の2つに統合されました。

やがて、安濃津県は三重県と名前が変わりました。明治9年4月18日、三重県と度会県が合併し、今の形の三重県になりました。



# 三重の古墳

古墳の形や構造、出土品について、県内の例を中心に解説したDVDです。

平成26年度制作【収録時間 映像約15分】

※県内の学校への配布はしていません。

ご利用については、三重県埋蔵文化財センターへお問合せください。

## 県内の古墳



うまづか  
馬塚古墳(名張市) 国史跡  
写真提供: 名張市教育委員会



みはた  
美旗古墳群(名張市) 国史跡  
写真提供: 名張市教育委員会

古墳群とは、古墳の集まりのことです。美旗古墳群は三重県を代表する古墳群で、馬塚古墳、殿塚古墳、女良塚古墳、毘沙門塚古墳、貴人塚古墳の5基の前方後円墳が100年ほどの間に次々とつくられました。

この中で最も大きいのが馬塚古墳です。全長142mあり、県内で2番目の大きさです。



みかさやま  
御墓山古墳(伊賀市) 国史跡

三重県で一番大きな古墳は、御墓山古墳です。前方後円墳で、全長は188mあります。



あけあい  
明合古墳(津市) 国史跡

明合古墳は、一辺60mの方墳の両側に、四角形をつなげた双方中方墳という形をしています。これは、全国的にも非常に珍しい形です。全長80m、高さ4mあります。



あさこだに  
浅子谷3号墳(伊賀市)



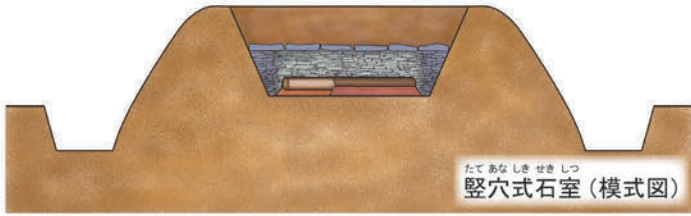
小学生の見学会  
(浅子谷3号墳)

浅子谷古墳群は、円墳ばかり19基あることが確かめられています。このうち8基が発掘調査されました。

3号墳は、直径14m高さ4mあり、横穴式石室からは土師器や須恵器のほか、刀子、鉄鏃、ガラス製小玉や水晶製切子玉、琥珀製棗玉などが見つかりました。

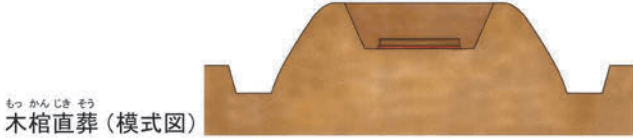


# 古墳の内部構造

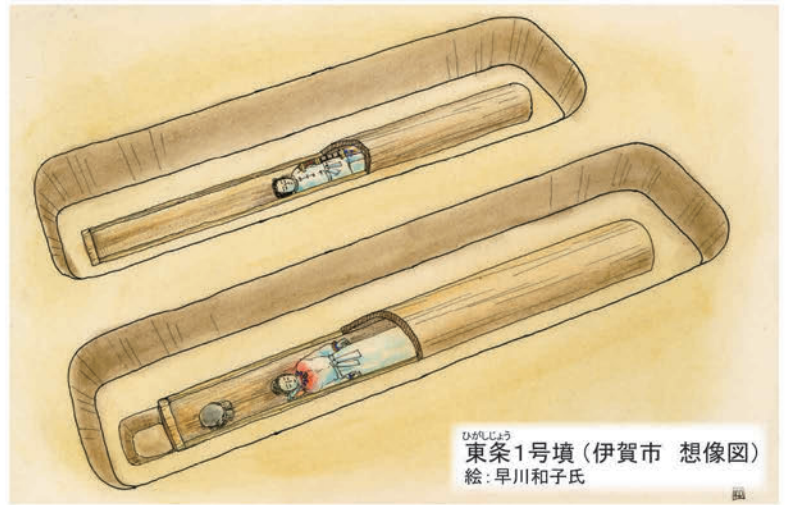


たてあなしきせきしつ  
縦穴式石室 (模式図)

古墳はお墓なので、亡くなった人を葬った場所があります。古墳時代中期ごろまでは、縦穴式石室に棺を納めていました。



もつかんじきそう  
木棺直葬 (模式図)



ひがしじょう  
東条1号墳 (伊賀市 想像図)  
絵: 早川和子氏

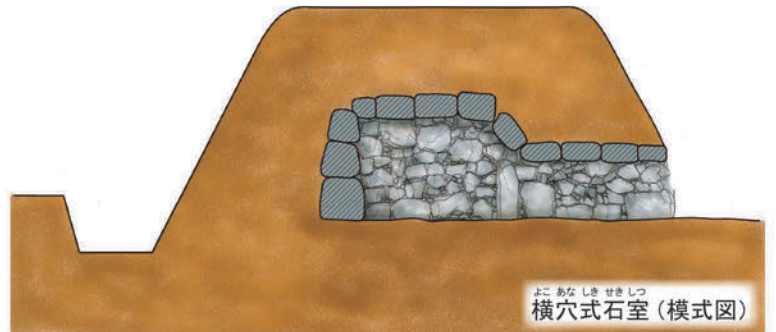
多くの古墳は、石室をつくらず、木棺直葬といって、木の棺を粘土で覆ったり、直接穴に埋めたりすることもありました。

東条1号墳では、木の棺を直接埋葬した跡が2体並んで見つかりました。1体は男性、もう1体は女性と考えられます。



あかいづか  
赤井塚古墳 (名張市) 国史跡  
写真提供: 名張市教育委員会

赤井塚古墳は、美旗古墳群の一つで、県内でも代表的な横穴式石室をもつ円墳です。石室の大きさは、全長 12.6m、幅 2.4m、高さ 3.5mもあります。



よこあなしきせきしつ  
横穴式石室 (模式図)

古墳時代後期になると、横穴式石室がつくられるようになります。古墳の横に入り口があり、奥には大きな石を積み上げてつくった石室があります。



おおなづか  
大名塚1号墳 (津市)



石室内

大名塚1号墳も横穴式石室の円墳です。南西の方向に、石室がぼっかりと大きな口を開けています。中は、人が立って歩き回れるくらいの広さがあります。

おじよか古墳の横穴式石室は、つくり方が大きく異なり、平らな石をたくさん積み上げてつくられています。これは、九州地方北部にみられる石室の特徴です。



おじよか古墳 (志摩市) 県指定史跡  
写真提供: 志摩市教育委員会



## 古墳の出土品



よろい かぶと きんたい  
鎧と冑 (近代古墳 伊賀市)

近代古墳から見つかった鉄製の鎧と冑です。皮ひもや鉾ひょうを使って鉄板をつなぎ合わせています。

貴重な鉄をたくさん使っており、当時は限られた人しか着用できなかったと考えられます。

井田川茶臼山古墳から見つかった、鉄製の刀です。鞘口と鞘尻の金具には、銀象嵌という高度な技術で竜の文様が施されています。



ぎんぞうがんとち  
銀象嵌太刀  
いだがわちゅうすやま  
(井田川茶臼山古墳 亀山市)

きやぐち  
鞘口の竜の文様

画文帯神獸鏡という青銅製の鏡です。これも井田川茶臼山古墳から見つかりました。(9頁もご覧ください) 同じ鑄型で作られた鏡が、明和町や鳥羽市神島など全国で26枚見つかっています。

がもんたいしんじゅうきやう  
画文帯神獸鏡  
(井田川茶臼山古墳 亀山市)



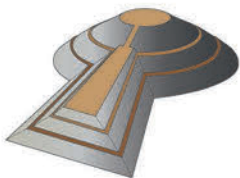
## 古墳の形

これまで見てきたように、古墳の形は様々です。円形と四角形をつなげたような前方後円墳は代表的な形で、教科書でもよく知られています。これとよく似たものに、2つの四角形がつながった形の前方後方墳があります。

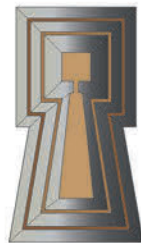
古墳の形で最も多いのは、円い形をした円墳です。特に、古墳時代後期以降、小規模な円墳が多数つくられました。ほかに、四角い形をした方墳などがあります。



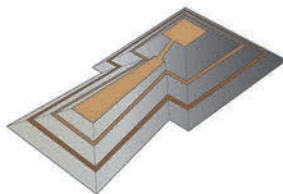
ぜんぼうこうえんぶん  
前方後円墳



ぜんぼうこうほうぶん  
前方後方墳



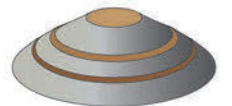
ほうほう  
方墳



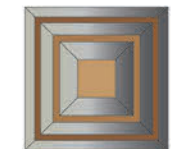
えんぶん  
円墳



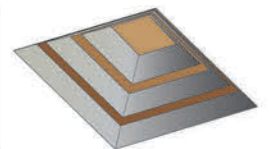
ほうほう  
方墳



ほうほう  
方墳



ほうほう  
方墳



ほうほう  
方墳



はに  
**埴輪**  
わ



宝塚1号墳の埴輪列 (松阪市)  
国史跡  
写真提供: 松阪市教育委員会

埴輪は、古墳の上に並べたり、周辺に飾られたりしました。これには、古墳が神聖な場所であることを示したとか、儀式の様子を再現したなど様々な意味があったようです。(8頁もご覧ください)



馬形埴輪 (石薬師東63号墳: 鈴鹿市)  
県指定文化財

上は、三重県で最も大きな馬形埴輪です。たてがみの表現が特徴的です。



埴輪を運ぶ人々 (想像図)  
絵: 早川和子氏



円筒埴輪 (宝塚1号墳)

埴輪の多くは上のような円筒埴輪です。古墳を囲むように、たくさん並べられました。巨大な古墳になると、その数は何千本にもなります。



冪形埴輪 (宝塚1号墳)

船形埴輪 (宝塚1号墳)



盾形埴輪 (宝塚1号墳)



家形埴輪 (宝塚1号墳)

宝塚1号墳からは、8頁で紹介した船形埴輪のほか、冪形埴輪、盾形埴輪、家形埴輪など様々な形の埴輪が見つかりました。冪形埴輪は、家の周りの柵、あるいは塀をかたどっています。

掲載の宝塚1号墳出土埴輪全て **重要文化財** 写真提供: 松阪市教育委員会



# 三重の宝

これまで紹介したほかにも、歴史学習・地域学習の教材として使える文化財「三重の宝」がまだまだあります。その一部を紹介します。

旧石器

## ナイフ形石器

後期旧石器時代

そねざき いせき  
曾祢崎遺跡 (明和町)

日本の後期旧石器時代(約3万年～1万3千年前)に広く見られる打製石器です。

素手で使ったり、柄に着けたりして使ったと考えられ、当時の万能ナイフでした。写真の石器の石材は、県内でよく見られるチャートです。



縄文

## 押し型文土器

縄文時代早期

こうのぎ いせき  
鴻ノ木遺跡 (松阪市)

縄文土器というと縄目の文様を思い浮かべますが、この土器は凸凹の模様を彫刻した細い丸棒を、焼く前の生乾きの土器面に転がして、文様をつけています。押し型文といって、縄文時代早期(約1万～6千年前)に広く見られます。県内では、大鼻遺跡(亀山市)などでも見つかっています。



弥生

## 石斧の未完成品

弥生時代中期

みややま いせき  
宮山遺跡 (いなべ市)

宮山遺跡は、青川と員弁川の合流点にあります。弥生時代中期には、磨製石斧を作っていたムラで、製作途中の未完成品がたくさん見つかっています。同じ石材の石斧が、県内はじめ愛知県でも見つかっています。宮山遺跡から運ばれたのでしょうか。



県指定文化財

弥生

## 双脚壺

弥生時代中期

かめ い いせき  
亀井遺跡 (津市)

変わった形の土器です。全国的にも例のない形で、下半分が2本の脚になっているので、こう呼ばれています。表面には弥生時代の壺によく見られる文様が描かれ、中は中空になっています。この遺跡の近くには、弥生時代の大きなムラだった納所遺跡があります。



古墳

## 韓式系土器、初期須恵器

古墳時代中期

ろくだい えーい せき  
六大A遺跡 (津市)

5世紀になると、朝鮮半島から新しい技術が入ってきました。韓式系土器(左4点)は、朝鮮半島系の渡来集団が日常的に使っていた土器と考えられています。初期須恵器(右4点)は、新しい技術でつくられ始めた土器です。この遺跡には、朝鮮半島系の渡来集団が暮らしていたと考えられます。



県指定文化財

飛鳥奈良

## 円面硯

飛鳥時代、奈良時代

ろくだい えーい せき  
六大A遺跡 (津市)

円形をした硯です。脚の部分は獣の脚を表現しており、獣脚硯とも呼ばれます。県内では斎宮跡などで見ついている高級なもので、当時としてはかなり高い階層の人が使ったと考えられます。六大A遺跡は、飛鳥時代、奈良時代になっても特別な場所であったようです。





飛鳥  
奈良

ど ば  
土 馬

飛鳥時代、奈良時代

カウジテン遺跡 (多気町)



粘土で作った馬の形をした焼き物ですが、馬形埴輪とは違います。

集落跡などで見つかることが多く、病気をはらうまじないや、雨乞いするときなどに用いられたと考えられています。

これまでに県内で140点以上の土馬が見つっています。

飛鳥  
奈良

わ どう かいちん(ほう) ぎん せん  
和同開珎 銀銭

奈良時代

ろくたいびー い せき  
六大B遺跡 (津市)



708年(和同元)年につくられた銀銭です。「珎」は「珍」の異体字とも、「寶」の略字だともいわれます。

和同開珎には銀銭と銅銭がありますが、銀銭は県内で4枚、全国的にも40枚ほどしか見つかっておらず、大変貴重なものです。

平安

おに がわら  
鬼 瓦

平安時代

はいじ  
ヒタキ廃寺 (松阪市)



屋根の棟の端に取りつけられた瓦です。

鬼の顔をしているのでこう呼ばれますが、写真のものは、鬼といっても角はなく、眉間にしわを寄せた表情がユーモラスに見えますね。

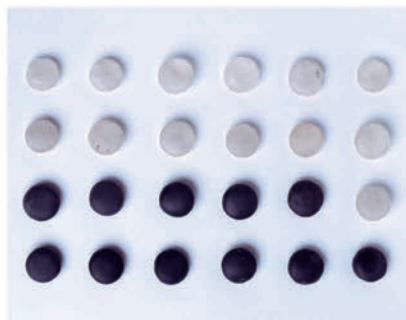
両目の間には釘穴が空いています。

平安

ご いし  
碁 石

平安時代

いん でん い せき  
位田遺跡 (津市)



溝の跡から24個がまわって見つかりました。

白石は水晶製、黒石は黒色粘板岩製です。

平安時代以前の碁石が見つかった例は、官衙(役所)跡や寺院跡に集中することから、極めて限られた階層の人の持ち物だったと考えられます。

鎌倉  
室町

かい ゆう し じ こ どう き つ ぽ  
灰釉四耳壺・陶器壺

鎌倉時代

きょうづかちゅうせいぼ  
経塚中世墓 (いなべ市)



中世墓は、鎌倉～室町時代のお墓です。経塚中世墓では、瀬戸、常滑、渥美で作られた陶器の壺に火葬骨を入れて埋葬していました。左は瀬戸で焼かれた四耳壺で、灰釉がかかっています。右は常滑焼の壺で、釉薬はかかっていません。

鎌倉  
室町

け びょう  
花 瓶

戦国時代

さきたに い せき  
寄谷遺跡 (松阪市)



寄谷遺跡は、戦国時代に三重県南部を支配していた北畠氏の城の一つ、おかわちじょう大河内城の西隣にあります。

寄谷遺跡には養徳寺があったという伝承があり、この花瓶など優秀な品々が出土したことで、伝承が裏付けられました。

江戸

れき せき きょう  
礫 石 経

江戸時代

こ たにあかさか い せき  
小谷赤坂遺跡 (松阪市)



礫石経は、紙の代わりに小石にお経を書いたものです。小谷赤坂遺跡では、礫石経を埋納した穴が53基もあり、見つかった小石の総重量は4トン以上にもなります。これは、経塚の一種で、亡くなった人を供養するためのものです。

江戸

えい らく やき わん  
永 楽 焼 椀

江戸時代

えいげ い せき  
大会遺跡 (亀山市)



幕末から明治初めに京都を中心に活躍した焼物師、12代目永楽善五郎の作とされる陶器の椀です。赤絵で花と「魁」の文様が描かれています。これは、今の中国で作られていた焼き物の模倣で、当時流行のデザインでした。椀の外底部には「永楽」の印が押されています。



# 出前授業をご利用ください

- 教室に**体験型の授業**を「出前」します！
- 三重県内の遺跡から出土した**本物の土器や石器**を教室にお持ちし、児童生徒が間近で見たり触れたりする体験を提供します（一部複製品・復元品の場合があります）。
- 当センター職員の旅費・報償費等は不要です。勾玉や石包丁の作成キットは学校でご準備をお願いします。



この鏡（複製品）もお持ちできます！



画文帯神獸鏡（複製品）  
井田川茶白山古墳（亀山市）出土

## お申込みのながれ

- 電話・メールなどでの連絡**  
希望の日程や内容などの相談をさせていただきます。  
電話：0596-52-7034 三重県埋蔵文化財センター 活用支援課
- 申込書のご提出** 申込書はホームページからダウンロードできます  
申込書に必要事項をご記入いただき、メールかFAXにてご提出ください。  
FAX送信後は、受信の有無を必ずご確認ください。  
FAX：0596-52-7035 mail:maibun@pref.mie.jp
- 当方より「申し込み受理の文書」を送付します**  
これで申し込みは完了です。
- 当日に向けての準備**  
当日までに細かな要望などございましたら、ご連絡ください。  
また、当方からも当日の流れなどについて、資料等を送付し、ご相談をさせていただきます。
- 出前授業当日**  
授業の開始時刻より1時間程度早めに会場へお伺いし、準備をさせていただきます。  
当日の準備、進行は当センター職員が行います。
- 授業終了後**  
アンケートにご協力いただき、今後の参考とさせていただきます。



学校周辺の遺跡を地図で学習



本物の土器に触れてみよう



勾玉づくり

石包丁づくり



火起こし



食事の復元模型や木簡の模造品で学習

そのほか、●紙芝居 ●三重の城すごろく ●ふるさと三重めぐりすごろく など、文化財を楽しく学べるメニューを取り揃えております。詳しくは、下記ホームページをご覧ください。

## 三重のれきし資料集!

本冊子の内容は、当センターホームページでもご覧いただけます。

写真提供、協力いただいた方々(敬称略)

北畠神社、斎宮歴史博物館、志摩市教育委員会、鈴鹿市考古博物館、津市教育委員会、鳥羽市教育委員会、名張市教育委員会、奈良文化財研究所、早川和子、松阪市教育委員会、三重県環境生活部文化振興課史編さん班、四日市市教育委員会

## みえけんまいぞうぶんかざい 三重県埋蔵文化財センター

〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503

☎ 0596-52-1732 FAX 0596-52-7035

URL: <http://www.pref.mie.lg.jp/maibun/hp/>

mail: [maibun@pref.mie.jp](mailto:maibun@pref.mie.jp)

三重県埋蔵文化財センター

検索

すごろく

ふるさと  
三重めぐり  
(平成27年度)



三重県内の  
全ての小学校に  
配布しました!

三重の  
れきし発掘隊!  
(平成28~30年度)

DVD